

令和3年度 第3回長野市総合教育会議 議事録（要旨）

- 1 日 時 令和4年2月2日（水） 午後3時50分～午後5時10分
- 2 会 場 長野市役所第一庁舎7階 第1・2委員会室
- 3 次 第
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ
 - (3) 協議事項
 - ① 第三次長野市教育振興基本計画（大綱）について
 - ② （仮称）子育て総合支援センター設置に向けた教育委員会との連携について
 - (4) 報告事項
 - ① 子どもの貧困対策計画策定に係る実態把握のための調査結果（速報）について
 - (5) 閉会
- 4 出席者
 - 荻原健司市長
 - 長野市教育委員会
丸山陽一教育長、近藤守教育長職務代理者、塚田まゆり委員、茅野理恵委員
 - 職員
西澤企画政策部長、樋口教育次長、勝野教育次長、中澤保健福祉部長、
日台こども未来部長、小林文化スポーツ振興部長、上石参事兼学校教育課長、
島田秘書課長ほか関係する市長部局及び教育委員会事務局の職員
- 5 会議要旨
 - (1) 開会 進行：西澤企画政策部長
新型コロナウイルス感染症の急拡大により、出席者を極力少なくしての開催
 - (2) あいさつ

荻原市長：

- ・教育委員の皆様にお集まりいただき、お礼申し上げます。
- ・3回目の総合教育会議の開催である。
- ・協議事項は、「第三次長野市教育振興基本計画」の策定であり、大綱にするため協議をお願いする。

- ・（仮称）子育て総合支援センター設置に向けて、教育委員会と市長部局とが適切に連携が図れるよう協議をお願いする。
- ・報告事項「子どもの貧困対策計画策定」のための調査結果の速報を報告し、関係機関と連携して、今後策定の計画が実のあるものとしたい。
- ・本日は、皆様から忌憚のない意見を頂戴したい。

丸山教育長：

- ・本日は、「総合教育会議」を開催いただき、感謝申し上げます。
- ・「第三次長野市教育振興基本計画」に対する市民意見等の募集を行い、計画案を1月28日の策定委員会で答申いただいた。また、教育委員会定例会で承認を受けた。この会議で、教育の大綱となるよう、協議をお願いする。
- ・子育て総合支援センター設置に向けた教育委員会との連携については、教育委員会と市長部局が連携して取り組んでいきたい。
- ・本日は、忌憚のない活発な意見交換の場となるようお願いする。

(2) 協議事項

① 第三次長野市教育振興基本計画（大綱）について

- ・樋口教育次長から、資料1に基づき説明

説明内容

- 1 第三次長野市教育振興基本計画の市民意見等の募集結果及び決定について
- 2 第三次長野市教育振興基本計画

【意見交換】

（委員） 計画の前段にある基本理念や概念、課題に基づきどういう施策をしていくかということが書かれていて良いと考える。パブリックコメントにもあったように、自分本位ではなく、基本理念にある通り広い視野から、思いやりの心を育むということが具体的にってきているのではないかと思う。

あとは、各施策を、学校教育等それぞれの実施計画に反映していけばいいと考える。

（教育次長） 策定委員会等で協議をいただいた内容であるが、現在の時代の変化、これからの将来どう社会が変化するかということを見据え、しっかりと子どもたちへの教育を、また、社会教育をしていくという中で出来上がったものと考え。この計画の前段の部分をしっかり踏まえながら具体的な施策の展開をしていきたい。

（委員） 計画を進めていくうえで、長野らしい第三期しなのきプランが中心になって

いることが素晴らしいと感じている。長野としてはどんなところに手を入れていくのかというところが位置付けられており、長野らしさが出ていて良い。

(委員) 変化の大きな時代に入っている。計画は、基本理念を大切にしながらも長期にわたって実現していくものであり、実現していく上での柔軟さもまた大切に進めてほしい。

(司会) これまでも十分協議し進めてきた。本日も良い計画になったとのことであり、本件についての協議は以上とする。

第三次長野市教育振興基本計画として決定し、この計画をもって本市の教育大綱として位置づけるということでよろしいか。

(意見なし)

(司会) 第三次長野市教育振興基本計画を教育の大綱とする。

② (仮称) 子育て総合支援センター設置に向けた教育委員会との連携について

・日台こども未来部長から、資料2に基づき説明

説明内容

- 1 子育て・子育て支援をめぐる課題
- 2 課題解決の方向性
- 3 子育て総合支援センターのミッション・狙い
- 4 既存の相談機関との関係イメージ
- 5 組織の名称について
- 6 職員配置について
- 7 教育センターにおける教育相談について

【意見交換】

(市長) 公約としてお伝えしてきたものを形にし、名称は「こども総合支援センター」とする。

子どもは様々で、不安等も様々。それらをすべて1ヶ所で受けとめられる体制を作ることが、市民にわかりやすい。このセンターを中心に、行政の縦割りではなく、横の連携でしっかり繋ぎ、市民の期待にこたえていくことが必要である。

今後、行政DXなどをさらに活用し、オンライン相談やチャットボットなども考えており、市民に利便性の高い機能にしていく。

(委員) 電話をしてくる人達はまだ訴える力があるが、本当に困った子どもたちにとっては、DXツールが大事になる。ツイッターなどの電子ツールを通じ、声の出ない人達のためのシステムを早く構築してほしい。

また、NPOとの関わり等、外からの情報をもってくるネットワークも網

羅してほしい。例えばこども広場じゃんけんぼんのNPOながのこどもの城
いきいきプロジェクトから情報を持ってくるなど、器が一つありその上に、
この支援センターがあるといい。

社協との関わりは、どのようになっていくのか聞きたい。

(こども未来部長) DXのツールについては、新年度予算の中で導入について研究
調査し、将来的には市長が話した通り、チャットボットの開発にも取り組ん
でいきたい。

NPOを含む子育て関係の様々な支援団体の関わりでは、関係イメージは
市の業務について示したもの。こども広場じゃんけんぼんには、子育てコン
シェルジュを配置しており、その方にも関わってもらう。今後、周りの関係
団体などとは、情報共有やオンラインでつなぐことも行い、強化も図りた
い。

(委員) 総合支援センターには、大変期待している。

総合支援センターが確実に機能していくためには、チーム支援がいかに実
現できるかにかかっており、各部署での専門職の方々たちのつながりの仕組
みづくりが必要と考える。関係職員がチームであるという意識をどう形づく
るかにより、この支援は大きく変わっていく。

チーム支援が成功するためには、それぞれの専門性をお互いに理解するこ
とで、チームとして発揮できる力が大きく変わる。自分たちがチームという
認識ができているところにケースが入ってくることにより、今まで以上に広
い視野で議論ができて支援に繋がると思う。

チームづくりを一つのポイントとして、この立ち上げと同時に行ってほし
い。

(こども未来部長) 連携できる仕組みづくりに重点を置いていきたい。

子育て総合支援センターの中では、チームとしての調整機能が一番必要だと
認識している。チームでの支援の会議を開くなど、こども総合支援センター
が主体としてやっていきたい。力を発揮するためにはチーム力であり、その
ような組織にしていきたい。

(委員) 総合支援センターの発足に、大変感謝している。

教育関係者だけでは救えない事例が増えてきている。発足後はチームづく
りを進め、柔軟性も持ち対応していく必要がある。

子どもたちがどう生きるかという大きな視点の取り組みが必要で、こども
総合支援センターが、対象の年代を小さい子と解釈せずに、高校、大学から
もっと先まで支援が必要な人を含めながら、ぜひ、自立した人になる支援が
できるセンターになってもらいたい。

(こども未来部長) 最初から完成形ではなく、様々なことを共有しながら、時代の

要請に応じて変わっていくと思う。

教育委員会との連携は非常に重要だと思っており、対象者は18歳で終わるのではなく、社会で活躍できるように支援することを目指していく。こども総合支援センターのミッションとしてお示ししているとおり、大きなミッションだが、これを掲げて、総合支援センターを進めていきたい。

(委員) ぜひよろしくお願いします。

様々なボランティア等の方々が大勢いる。教育振興基本計画にも協働としていることもあり、ぜひボランティアの方等との繋がりを持ち、行政だけでは難しいことを対応するために、社会全体で力を合わせていく仕組みになってほしい。

(委員) 市役所だけでの完成形ではなく、皆さんで長野市を良くしてこうというムーブメントが起こればいい。

子どものことを市役所だけで考えるのではなく、長野市民のみんなが、子どもたちを包括的に見守り良くしていこうという思いになれるような起爆剤となると思う。

総合支援センターに協力してくれる多くの企業が話し合い、さらにその輪が広がり、長野市民みんなが子どもたちをみていく思いが上がればいい。

(司会) 非常に前向きな意見、提案をいただいた。

今後、参考にさせていただき、こども未来部を中心に、市長部局や教育委員会、教育委員の皆様のご協力をいただきながら進めていく。

(4) 報告事項

①子どもの貧困対策計画策定に係る実態把握のための調査結果（速報）について

- ・日台こども未来部長から、資料3に基づき説明

説明内容

- 1 子どもの貧困対策計画策定に係る子どもの生活状況に関する実態調査の概要
- 2 子どもの生活状況に関する実態調査（結果速報）

【意見交換】

(委員) データを見ることができてよかった。

ネガティブな部分が見えるものがあるが、この後、対策で気をつけるべきは、これはあくまで郵送分だけということ。郵送してこない子たちの中に、すごく苦戦している子どもたちが多い。ネガティブな項目は、実際はもっと数値が低いことを常に想定し続けながら、忘れずに考えていきたい。

(こども未来部長) 今回、支援している関係機関へのヒアリングを行っているが、

アンケートに答えてくれない子どもや家庭ほど、問題を抱えてる可能性もある。学校の先生に直接話を聞いている状況であり、そこでの感覚と、このアンケート結果と違う部分もある。このアンケート結果に出てこない部分も含めて、ヒアリングの調査結果をまとめて報告する。

(委員) こども総合支援センターに相談に来るとするのは、かなり良い状況だと思う。

来られない方が沢山いる。アンケートも同じことが考えられるが、その掘り起こしが最近非常に難しく、今は民生委員が個人情報ということで入っていけない。

ヒアリングをやる中で、他に困ってる人を知っているかを聞くような項目を入れてかないと、末端まで広がっていかない。

(こども未来部長) 今は、コロナや台風災害での経済的な状況による社会的な要因が大きいと感じる。

この問題は、社会全体で対応していかないと、行政だけでは対応できない。あらゆる機関、また、親の就労等では企業にも情報共有や社会的な要因の解決に向けて、一緒に動ける仕組みも作っていかねばいけないと感じている。

(委員) 小学校と中学校では全く違うため、それぞれに分けたデータがほしい。各学校で校長先生や全先生方がこの事情を知れるような状況にしてほしい。

(こども未来部長) 最終的には分けて報告する。

(教育次長) 教育現場としては、貴重なアンケート資料であり、分析後の数字を活用し、教育活動にも反映するようにしていきたい。

教育委員会でも、子どものことで把握できている情報がある。情報を共有しながら一緒に考えていきたい。

(委員) 学校でも、i P a dなどを利用して先生とコミュニケーション取りながら、貧困家庭を日頃からキャッチすることが大事である。

(教育次長) 作成中の段階だが、タブレットを利用して、問題等を把握するシステムを構築中であり、それも活かしていきたい。

(市長) こども総合支援センターで受けとめられるように、体制をしっかりとっていきたい。

(こども未来部長) こども総合支援センターとしては、4月からスタートになる。フロアのレイアウトについては、新年度になってから順次やっていく。

(委員) 将来的には、相談者が増えてくことも視野に入れる必要がある。

(司会) 今後、アンケートの詳細な調査を進めて、貧困対策計画、施策、広くこども総合支援センター事業の方にも参考に進めていただく。

萩原市長（まとめ）：

- ・皆様に貴重なご意見いただき感謝申し上げます。
- ・こども総合支援センターは、春からスタートできる体制で準備を進めている。
- ・貧困のアンケートでは、困ってるご家庭、お子さん、保護者の実態が浮かび上がった。声なき声をしっかり受けとめていく。
- ・コロナで学校へ行かない日があり、子どもをめぐる問題も生じている。教育長始め、現場の皆さんには、しっかりした対応をしていただきたい。